

京都教区時報

第214号

田中司教認可
毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
 編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上の河原町カトリック会館5F
 カトリック京都教区ザビエルネット／アクセスNo.075-467-1676 ゲストID:GUEST
 通信速度:1200-28800bps 通信条件:N,8,1,X,N 接続環境:単回線24時間



9
1995

銀行名 関西銀行京都支店
 口座番号 普通預金232320
 名義 宗教法人カトリック京都
 司教区 代表役員 田中健一

大阪教区への新生計画はまだまだ始まつたばかりです。今後もみなさんのからの支援金をお願いします。

総計	二七、七五六、五六二円
小教区	一六、五二三、四七〇円
修道会	三、六五九、二五八円
施設団体	三、〇七六、八三五円
学校幼稚園	二、一〇〇、七六七円
個人	二、三九六、二三二円

六月より、中山手の現地本部のボランティアの方たちの食事の世話をするために、京都南部と滋賀の教会の婦人達が、当番制で「生活班ボランティア」に協力しています。一つの教会から、七週間に一回の割合で、二、三名の婦人が中山手教会まで出向いています。

ボランティアを支える

▼大阪教区への震災義援金の報告
 多くの方から義援金を頂いたことをここに感謝致します。六月三十日現在の報告です。

京都における戦跡めぐり

に参加して

小山教会 和田 真



今年六月初め、国会で「戦後五十年決議」が行われた。

「また、世界の近代史における数々の植民地支配の侵略的行為に思いをいたし、我が国が過去に行なったこうした行為や他国民とともにアジアの諸国民に与えた苦痛を認識し、深い反省の念を表明する」と

「植民地支配」や「侵略的行為」を行った国がどこであったかがばかり、「謝罪」や「不戦」の言葉がない国会決議は、アジアの国々から批判を受けた。

こうした決議を行うにあたっては、もちろん支持する声も高かったが、一方で日本遺族会をはじめとする団体からは、五十年前のこと

が「植民地支配」や「侵略的行為」と決めつけられたり、それを謝罪したりすることは、「英靈」への冒とくであるから、断固決議に反対するという意見が数多く見られ、いまさらながら、過去の戦争に対する思いが人により大きく違うことに気づかされる。

国会決議から約一ヶ月後、七月九日、カトリック部落問題委員会主催の「京都における戦跡めぐり」の中で、身近なところでの、戦争に対する意識の違いに驚かされた。京都市伏見区の藤森神社の境内の記念碑に次のようなことが書かれていた。

「：歩兵第九、第三十八の両聯隊は、昭和十二年支那事変（注1）勃発するや、北支・中支に転戦し、南京城を陥れ、徐州に戦い長駆大別山を突破して武漢攻略戦に不朽の戦績をのこした。歩兵第九聯隊は、昭和十六年大東亜戦争の勝利（注2）比島（注3）に敵前上陸して、バターン半島を席捲（注4）：光輝ある歴史を閉じた。祖国を愛し、祖国を護り、進んで国難に殉じた郷土部隊の光榮ある歴史と名譽ある伝統とは永遠に後世に伝えられるべきである。

：（京都歩兵聯隊跡記念碑建設

会）の碑より）

こうした雰囲気の記念碑は、こ十年以内に建てられたものも含め、京都靈山護國神社など、京都のいたるところに見ることができた。

もし、上のような記念碑の文面を中国の人、フィリピンの人気が知つたら、どのような気持ちがするだろうか、という思いと同時に、このような記念碑を建てる人々の心情は、どのようにしたら克服されるのだろうか、という重たい問い合わせが残された。

アジア太平洋戦争で敗戦を迎えるまでの教育の問題も確かにあると思うが、何かそれだけでは片づかないものがあるので、という気持ちになつた。

過去の戦争について考えるとき、日本の加害者としての側面を見なければ、アジアの二千万人の命を奪つた、あの戦争の問題の全体を考えることには決してならないと思う。



の記念碑のような言葉を残す人々の思いが克服されるためには、どのように考えればいいのだろうか。この重たい問題が解決しないかぎり、二度と戦争を起こさないようするための、本当の平和運動として広がっていかないのではないか。

注1

一九三七年の盧溝橋事件。
日中戦争の出発点となつた。

注2

最初という意味。

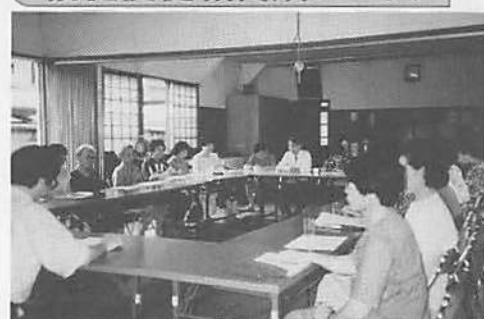
注3

フィリピン島のことだろう。

注4

むしろをまくように、ものすごい勢いで、かたばらから侵略すること。

信徒使徒職養成コース



九月教会へ出前実施

八つの小教区からの参加でした。

毎回、午前十時半から午後四時までの五時間半、信仰共同体・神の家族として学び合いながら共に歩みました。

第一回

公会議の学習と コミュニケーション

まず、公会議そのものの歴史と、教会の移り変わりを見、日本の教会・京都教区の動きを見て、私たちは「神の民」であり、その典礼や諸宗教との対話等から、教会の現代化の必要性と、日本の教会そのものも子供の時代即ち、教えを受ける・受動的信徒から大人の時代・即ち宣教に目覚める教会へと成長していくと心していることを確認しました。

午後は、教会とは何か・理想の教会と現実の教会について小グループで話し合いました。

第二回

信徒の奉仕職、特に 聖体奉仕者・集会司式者について

午後の集いでは、共同体の基礎となるコミュニケーションの体験で「出前コース」と称して初めての試みで実施しました。その理由は、二泊三日も家を留守にしての参加は難しい。参加しやすい日程で、という小教区からの要望と、信仰共同体としての成長の視点から、小教区共同体の現場に出かけて行く必要を実感していました。

三回シリーズの今回の参加者は男性・女性合わせて二十五名で、力トリックきょうと福音センターでは、五月二十一日、六月十八日、七月十六日の日曜日を利用し三回シリーズで、信徒使徒職養成の基礎コースを行いました。今回は、九条教会の協力を得て、センターのスタッフが出張し、日帰りの形で「出前コース」と称して初めての試みで実施しました。

教会と信徒

「教会と信徒」をテーマに、教会が信仰者の集いであり、教会は神との交わりと全人類の一致のし

るしである。教会は道具であり、秘跡即ち目に見えるしである

ことを確認し合いました。そして、私たちには「神の民」であり、その特徴は、「一・キリストを頭とし、二・神の子の自由の身分を受け、三・神の国実現を目指し、四・互に愛しあい、五・小さな群れで、六・常に新しくされ旅をする民である」ことを通して、私たちが旅する教会の歴史の中で信徒の役割が大きく変わった事を見て、私が旅した。

午後は、午後は、教会とは何か・理想の教会と現実の教会について小グループで話し合いました。

第三回

聖体奉仕者・集会司式者について

この日は、司祭と信徒の教会での役割と、一人ひとりに与えられている奉仕職、即ちカリストにつけられて受け入れ易い雰囲気と方法を配慮した分かち合いの訓練を行いました。耳を傾け合うことと分かれ合いの意味を話し合いました。

第二回

「教会と信徒」をテーマに、教会が信仰者の集いであり、教会は神との交わりと全人類の一致のし

いうのは共同体か? という問題の投げかけは、家庭集会・集会祭儀の可能性に何らかの示唆を与えたように思う。

この日の午後は、みことばの分かち合いの実習、最後のミサの準備として、各グループで、みことばを読み合い、味わって、思いを述べ合いました。そして、ミサの時、司祭のお説教の場の代りに、各グループから発表の形で分かち合いをし、コースのしめくくりをしました。

今回のコースは初めての試みでありますましたが、教会で起きている現象だけで小教区をとらえていたが、教会の歴史の流れの中でわかりやすく学習できたことは本当によかったです。参加して下さった方が感想を述べて下さり、センターとして実施した甲斐がありました。福音宣教共同体へ成長していくような教会共同体の学習が大切だと痛感しています。教会や地区の必要に合わせて皆さん協力を頂きましたが企画して参りますので、希望される地区はどうぞ連絡して下さい。

ウイツテ神父様

マキロップ神父様

司祭叙階ダイヤモンド祝
おめでとうござります。

ウイツテ神父歴



1958年～1961年	ニューヨークメリノール宣教会総長顧問	北海道地区管区長代理
1962年～1966年	メリノール宣教会	日本管区長
1967年～1968年	南米ボリビアにて 沖縄移民のため宣教司牧	1967年～1968年
1968年～1976年	米国ロスアンジェルス・リトル東京にて司牧	1968年～1976年
1976年11月～	上野教会主任司祭	1976年11月～
1990年4月	上野・名張両教会 主任司祭	1990年4月
1935年8月24日	来日	1935年8月24日
1935年～1937年	大津市にて日本語 勉強	1935年～1937年
1937年～1941年	彦根教会主任司祭	1937年～1941年
1942年6月	戦争のため本国へ 送還される	1942年6月
1943年～1946年	中米グアテマラにて宣教	1943年～1946年
1947年～1950年	彦根教会主任司祭	1947年～1950年
1950年～1955年	伏見教会主任司祭	1950年～1955年
1955年～1956年	メリノール宣教会 北アジア管区長	1955年～1956年
1957年～1958年	メリノール宣教会	1957年～1958年

マキロップ神父歴



1910年6月13日	米国インディアナ州リッヂモンド市に生れる。
1929年	メリノール宣教会に入会
1935年6月16日	司祭叙階
1935年8月24日	来日
1935年～1937年	大津市にて日本語 勉強
1937年～1941年	西陣教会主任司祭
1942年6月	帰国
1943年～1946年	メリノール小神学 院院長（カリフォルニア）
1946年～1948年	東京にてララ救援 物資活動に従事
1948年～1954年	メリノール宣教会
1948年～1951年	高野教会主任司祭
1951年～1954年	京都司教代理
1954年4月	帰国
1958年～1968年	米国ロスアンジェルス・リトル東京にて司牧
1968年～1974年	衣笠教会主任司祭
1974年7月～	松坂教会主任司祭
1974年9月	メリノール宣教会

マキロップ神父とモルガンの母

衣笠教会 加藤ナミ江

母が三十五年ぶりに日本に帰国した時は、もう支那事変が始まってしまっており、あまりよくない状態になっていました。私は時々河原町教会のミサにあずかり、

ウイツテ神父の人柄

名張教会 石田隆治

去る六月十一日、神父様の司祭叙階六十周年記念ミサと祝賀会を行いました。

さて、ウイツテ神父様の公的な足跡は別記の略歴のように輝かしいものであります。個人的なお人柄につきましては改め

て申し上げる必要もないと思いますが、一言つけ加えさせていただきますと教会での神父様の存在は信者にとって「父親的存在」で、子供たちにとつては「やさしいおじいちゃん」として信頼と尊敬を集めておられました。

神父様のご生活は聖書のみ教えを身をもつて実践され、すべてを口（言葉）ではなく、態度（身）をもつて私達に示されご指導下さいます。特に神父様は祈りと清貧の徳を大切にされ、自己に厳しく、他人には寛大で信者の尊敬的目的であります。私達信徒一同は立派な神父様に恵まれている事を神様に感謝すると共に、少しでも神父様のご意向に近づく事が出来るよう努力し、当名張小教区が益々ファミリー的なまとまとったキリスト共同体である小教区にしたいと念願しております。

バーン神父やシスター達ともお知り合いになりました。だんだん戦争もはげしくなり、外国の神父はほとんど本国にお帰りになりましたが、バーン神父は高野教会に軟禁と言うことになり、私が母の代りによくお伺い致しました。

終戦後神父も次々と日本にお帰りになりましたが、私達が頼りにしていたバーン神父は朝鮮へ行かれることになり、神父は私達の事を心配して後の事をすべてマキロップ神父に頼んで下さいました。当時私は教会へは時々行つてましたが未信者でした。マキロップ神父は或日シスターを紹介して下さり、「今日から教理の勉強をしましよう」と言いました。そうして一年後、松ヶ崎のメリノール修道院で洗礼を受けました。

忘れ得ぬこと

大阪教区夙川教会

一九四八年八月京都ドミニコ会の中にメリノール女子修道院があつた頃、マキロップ神父から二歳の長女と共に受洗のお恵みを頂いた。

その折幼児洗礼について一つの忘れられないエピソードがある。私の受洗については何の反対もしなかつた夫が娘の洗礼については、本人がはつきりした意志を持つまで待つ方が良いのではと言いました。

高野教会に居られたマキロップ神父が夫に会つて下さることになつて、「あなたは医者でしょう。患者さんを治療する時、自分が最良一番頗つていた夫にまで洗礼のお恵みを与えて下さった。感謝

糸井千枝子

バーン神父やシスター達ともお知り合いになりました。だんだん戦争もはげしくなり、外国の神父はほとんど本国にお帰りになりましたが、バーン神父は高野教会に軟禁と言うことになり、私が母の代りによくお伺い致しました。

終戦後神父も次々と日本にお帰りになりましたが、私達が頼りにしていたバーン神父は朝鮮へ行かれることになり、神父は

マキロップ神父の思い出

高野教会 C K O

マキロップ神父に生命を助けて頂いた信者、未信者の多かったこと。終戦後の日本は、まだまだ結核が蔓延していました。結核は今日の「癌」と言われるのと同じ位死を意味する病気だったのです。

結核患者は健常者と隔離され、心身共にまいつてしまふ人が多かったです。

人々に頼まれば誰彼と区別することなく、ストレプトマイシンを下さつたのです。

その頃日本にはストレプトマイシ

ンはありませんでした。

肺に空気を入れる治療。悪い処をとる手術。等々をしても治らなかつた人々が、この薬によつて治らされた方々の喜びはいかほどだったでしょうか。健康になられて教授になられ、後進の指導に当られ

た人。「日本の能」を皆に理解されるよううにされた方々。多くの方の感謝の声がきかれます。

灰皿に、ドント・スマーカとかされた灰皿をもらわれてすぐに煙草を止められた神父様。六十年もかかれた神父様。六年も

の長い間私達のために尽して下さつた神父様。これからもどうぞ元気で神様のために御働き下さい。

最近のマキロップ神父

ウイチタ聖ヨゼフ修道会
シスター 林 富美

時の流れは早くマキロップ神父が松坂へ来られてもう二十年以上前の月日がたちました。

教会から約六キロ余り離れたところに今私が働いている老人ホームがあり、開設以来二十三年の歴史を歩いています。その間殆ど毎日のように御自分で車を運転され、御ミサに又その他のためにおいて下さいました。

ここ二年前より白内障が進行し、昨年より運転中もしものことがあると、との上長の方の御配慮で車も手放され、朝はお迎えのタクシーで御ミサに、そして帰りはホームの職員がお送りするという形で週に五日、ホームとケアハウスに入院してられる方々、そして私共のためにおいて下さつっていました。

御ミサのお話も信仰を深め、隣人愛に生き、人々のために祈るようによつてその日その日に心をこめて話して下さっています。

神父は宣教師として来日されて以来、日本の人々の靈魂の救いのためにたくさん祈り、靈的な助けを与え続けておられます。

去る六月二十

五日、鈴鹿教会において「福音宣教三重の集い」が開かれた。島本要大司教の「コイノニアである教会をめざして」と題した基調講演をもとに、各自の教会をコイノニアの視点から考え、互いに語り合う集いであった。

午前十時のミサから始まり、県下の九教会と三修道会から集まつた百五十名以上の参加者は、午後三時まで実り多い一日を過ごした。

講演は最近教皇が出された使徒的書簡「紀元二千年を迎えるに当つて」の中から、歴史の節目に立つ教会の動きに関し二点を取り上げて話された。

一、教会の本質

- (1) コイノニアである教会
- (2) 祈りの集いである教会
- (3) 福音宣教する教会

神の摂理によって開かれたバチカン公会議は、教会の自己理解を

招く。

*キリストが望まれる社会づくり（社会の福音化）。以上の本質を理解し、その使命に生きること。

一、回心

ふさわしく第三千年紀を迎えるに当つて、教会の過ちに対する回心が必要である。

(1) 教会の本質であるコイノニアを歴史の中で損なつたこと。十世紀の教会内の分裂の例。

(2) 歴史の中で真理への奉仕を教会が果たすべき際に、不寛容で暴力的な行使を黙視したこと。

(3) 信仰を守らないことや曖昧な宗教心に対し、教会は鋭敏に対処せず黙認したこと。

(4) いのちと愛の絆である家庭について価値観の崩壊を防ぐ対応をしなかつたこと。

以上の過ちを素直に認め、悔い改めの努力を惜しまないことが大切である。

紀元二千年に向かつて、コイノニアである教会をどのように作つていくのか。公会議は二つ勧めている。



(1) 参加することの大切さ

根本的にはミサへの参加によつて聖体的共同体を作る。キリストを拝領して、信者は相互に受け入れる。典礼活動、福音宣教活動、信仰教育、司牧活動などに積極的に参加することの重要性。

(2) 対話することの大切さ

司教、司祭、修道者、信徒が相互に対話し、声を聞き合つて養成し合うことの重要性に気付く。

以上によつてコイノニアが実現すると信者の中に責任感が強められ、熱意が育成されて、宗教的にも世俗的にもより適切な判断ができるようになり、キリストによつて委ねられた教いのみ業（福音宣教）をより効果的に果たすことができる。すると、大司教は熱意を込めて語られた。

午後からは各々グループ討議によって、大司教の語られた教会の本質であるコイノニアを深め合い、その実現に努力していきたいと決意を新たにして散会した。

（文責・菅野）

本当に若者は教会を離れているのでしょうか?!

津教会・吉田弥生

若者の教会離れをよく耳にする今、私は若者の一人として、その問題について考えてみました。確かに、御ミサにあづかっても年々「若者」という人は減っているかもしれません。私が高校生だった頃(約十年前)には、中・高校生の集まる会があり、夏には合宿、冬には街頭募金活動、その後のクリスマス会といふのはとても楽しみでした。

でもはたして本当に若者は教会を離れているのでしょうか?! 私事で恐縮ですが、しつかり私も短大時代に教会から離れていきました。その頃サークルでやっていたESSSの英語劇に力を注いでいたりと、忙しかったのも一因だったかもしれません。行きなくなつた時、久々に顔を出して皆に受け入れてもらえるか……と思つてしまい、自分の居場所がきちんとあるサークルにのめり込んでしまつていました。それでも私はカトリック信者をやめたわけでもなく、教会から離れるという意識はありませんでした。

今日、久しぶりに、中・高校生の頃仲良かつた子とバッタリ

教会で会いました。私は御ミサで彼女の顔は最近見なかつたし、確かに離れている一人だと思った。しかし、彼女は週末、「若者」という人は減っているかも知れません。私が高校生だった頃(約十年前)には、中・高校生の集まる会があり、夏には合宿、冬には街頭募金活動、その後のクリスマス会といふのはとても楽しみでした。

でもはたして本当に若者は教会を離れているのでしょうか?! 私事で恐縮ですが、しつかり私も短大時代に教会から離れていきました。その頃サークルでやっていたESSSの英語劇に力を注いでいたりと、忙しかったのも一因だったかもしれません。行きなくなつた時、久々に顔を出して皆に受け入れてもらえるか……と思つてしまい、自分の居場所がきちんとあるサークルにのめり込んでしまつていました。

今年の夏、津教会で若者のためのワークショップをします。何人の参加者がいるかと下キドキしてしまつたが、二十人前後の参加はあります。

9月からは、土曜日の御ミサに思いを馳せ心に刻む集会

日曜日13時半～月謝2千円

△カトリック聴覚障害者の会手話

教室 火曜クラス10時半～12時

△Sr.アンヌタの書道教室 毎週金

曜日13時半～月謝2千円

△おてんとさんの会 每週火曜日

13時～16時半 お茶代百円

△手話教室 第1・3・4金曜日

10時半～12時 西院教会

△信睦二金会 8日 西陣教会

△敬老感謝のミサ 10日 河原町

10日 河原町教会

△カトリック聖書研究と手話の勉強 19時半～

△カトリック聴覚障害者の会手話

教室 火曜クラス10時半～12時

△聖ヴィンセント・ア・パウロ

木曜クラス・聖書研究と手話の勉強 19時半～

△カトリック聴覚障害者の会手話

教室 火曜クラス10時半～12時

教区スケジュール

9月

10日(日)四十周年・堅信式(九条
教会)

17日(日)堅信式(西陣教会)
21日(木)司教顧問会(河原町会館)

23日(土)大阪・京都・名古屋教区
合同韓国殉教者を讃える野外
ミサ(野外礼拝セントナー)

28日(木)司祭評議会(河原町会館)
お知らせ

お
知
ら
せ

★京都教区信徒連絡協議会
日時・9日18時~10日13時
場所・網野教会
議題・各信徒協の活動状況の分
かち合い、教区信徒協の活性化
について、その他
★みことばを書こう書道、絵画展
今年も11月10日~23日に開催さ
れます。出品締切は11月1日で
す。お早めに準備下さい。出品
要項は10月号に掲載します。
聖書と差別シンポジウム
日時・17日14時~17時
テーマ・戦争
場所・河原町教会

参加費・五百円
シンポジスト
角樋平一さん「教会におけるも
のの考え方(神学)と差別」
(日本基督教団牧師・部落解放
センター主事)

伊徳直子さん「先住民に加えら
れた戦いを見て(キリスト教と
は何なのか)」(メルセス宣教修
道女会)

並木勝豊さん「聖書のなかの差
別肯定文、神のことばに対する
キリスト者のジレンマは」(サ
レジオ会司祭・聖書学者)

司祭・神林宏和さん(大阪教区
司祭・部落問題委員会常任委員)
申込と問合せ・部落問題委員会
075-223-2291

福音センターからの案内
視聴覚(AV)会員制度の案内
カトリックきょうと福音センター
には、視聴覚会員制度がありま
す。当セントナーには教会学校、
信仰生活、その他、色々な集い
の勉強会等の資料も数多くござ
いますので、団体会員、或いは、
個人会員になつていただき、視
聴覚教材を大いに活用して下さ
いますようお願い申し上げます。

福音センターから
視聴覚(AV)会員制度の案内
カトリックきょうと福音センター
には、視聴覚会員制度がありま
す。当セントナーには教会学校、
信仰生活、その他、色々な集い
の勉強会等の資料も数多くござ
いますので、団体会員、或いは、
個人会員になつていただき、視
聴覚教材を大いに活用して下さ
いますようお願い申し上げます。

★京都北部地区の行事
△巡礼 23日 峰山教会

みことばを書こう書道、絵画展
今年も11月10日~23日に開催さ
れます。出品締切は11月1日で
す。お早めに準備下さい。出品
要項は10月号に掲載します。

聖書と差別シンポジウム
日時・17日14時~17時
テーマ・戦争
場所・河原町教会

保育園、各種学校、施設など団
体使用の目的でAV貸出を希望
される方

*個人会員 年会費・三千円

個人使用の目的でAV貸出を希
望される方

会員申込方法・郵便振替でお願
いします。いつからでも加入で
きます。

□座番号・01010(3)2
4335

加入者名・カトリックきょうと
福音センター視聴覚室

問合せ・075-822-712
3(代)

△暮しの中のカウンセリング 毎
月曜日10時~12時

△韓国語講座毎木曜日10時~12時
24~25日

△京都教区青少年担当司祭会議
月曜日10時~12時

△三重地区的行事
敬老の日 17日 津教会

△運動会 30日 津保育園

△京都北部地区の行事
巡礼 23日 峰山教会

△奈良地区的行事
ボランティア養成中級講座「ア
ルコール・薬物中毒を理解する
為に」

△視聴覚(AV)会員貸出規定
法人会員 年会費・七千円

△聖ヨゼフ葬典社
21日19時半~21時

奈良教会
△マリスト・ファミリー・デー
10日14時 野外礼拝セントナー
ペルーとフィリピンの方々を招
待しています。

△奈良ウォーカソン 23日
その他

△北白川教会ブドウの会
17日10時半~11時40分

△編集部よりお知らせ
「一万匹の蟻運動」基金報告

△電話番号情報コーナー
累計9,307,400円

△いのちの電話(相談窓口)
加入者 775名(7月18日現在)

△お知らせに載せたい行事の情報
は、11月号でしたら10月2日ま
でにお願いします。

△電話番号情報コーナー
ムへのぞみの園△

△京都市東九条特別養護老人ホ
ーム

△北白川教会小聖堂内納骨堂
075-662-3961

△聖ヨゼフ葬典社
075-312-7829